

第6章 基本理念と基本方針

第1節 基本理念

本史跡は西欧列強の進出に備えて近世末期に造営された仙台藩の陣屋跡であり、東蝦夷地と呼ばれた太平洋岸のうち、白老以東を防備するための本拠地であった。蝦夷地各地に造営された陣屋と比較して、内曲輪などの形状や主要な遺構がよく分かる状態で残されていた。

本史跡が好ましい保存状態にあった背景には、史跡指定以前からの地域住民による自発的な保護活動の歩みがあった。また、「青葉会」が始めた藩士の供養祭は、現在でも定期的に行われている。こうした日常的な維持管理の取組が、地域に世代を超えた文化財愛護の精神を根付かせてきた。恵まれた周辺の社会環境に加え、市街地と離れた立地環境が周辺の豊かな自然環境とあいまって、本史跡は来訪者の関心を絶えず引き付けている。

以上のことから、本史跡の本質的価値及び地域と共に歩んできた近代以降の流れを踏まえた基本理念を次のように定める。

基本理念

1 保存管理の基本理念

幕末蝦夷地の歴史を伝える白老元陣屋の本質的価値の確実な保存と維持管理

2 活用の基本理念

特色ある歴史と環境を最大限に活かして多様な来訪者に分かりやすく伝える活用

3 整備の基本理念

本質的価値の顕在化と歴史的意義が理解しやすい整備

4 運営体制の基本理念

官民の密接な連携に基づく運営

第2節 基本方針

第1節の基本理念を実現するため、保存管理、活用、整備、運営体制について基本方針を示す。また、第7章以降ではここで示した基本理念や基本方針に沿って、方向性や具体的な方法を述べる。

(1) 保存管理のための基本方針

ガイダンス施設である元陣屋資料館へ適切に人員を配置し、日常的な維持管理業務の中で本史跡の本質的価値を保存するとともに、定期点検を通して管理の質の向上に努める。

(2) 活用のための基本方針

様々な事業の実施を通して、本史跡の本質的価値が後世へ引き継がれる環境づくりを推進する。また、各団体からの協力を得ながら、ウポポイの関連施設としての役割や、多文化共生社会の実現に向けた拠点的作用を果たせるように努める。

(3) 整備のための基本方針

確かな調査成果に基づき、本質的価値の更なる顕在化と本史跡の持つ歴史的意義を理解しやすい整備を行う。

また、特色ある立地環境とも調和のとれた整備とすることを強く意識する。

(4) 運営体制の基本方針

指定管理団体である白老町を中核に、庁内所管課や地域住民などとの連携を強め、後世まで引き継がれる官民一体の運営体制を確立する。